

(6) 実践の考察

研究の視点

本研究では、特別活動と道徳科との関連を図るため、学校行事前後の学習過程を工夫することを通して、よりよい仲間との関係や日常の学校生活を築こうとする児童の育成を試み、実践を行いました。その実践の成果と課題を明らかにするために、以下の3つの視点で考察をします。

ア 児童はよりよい仲間との関係を築こうとしているか。

イ 児童はよりよい日常の学校生活を築こうとしているか。

ウ 児童は自他の言動に含まれる道徳的価値を自覚しているか。

ア 児童はよりよい仲間との関係を築こうとしているか。

「児童はよりよい仲間との関係を築こうとしているか」については、第4学年の実践を基に考察します。「よりよい仲間との関係」とは、相手の立場で物事を考えながら認め合ったり高め合ったりする関わりを通して、互いに尊重し合い、相手を必要とし合える関係だと考えます。

下の図1は、4年生児童に取った実践前と実践後のアンケート結果を比較したものです。「思う」4ポイント、「少し思う」3ポイント、「あまり思わない」2ポイント、「思わない」1ポイントとし、その平均で比べています。

実践前と比べて実践後は、「困ったときに助けてくれる友だちがいる」が0.3ポイント、「一緒に遊ぼうと声をかけてくれる友だちがいる」が0.2ポイント上がっています。「ぽかぽかコミュニケーション」を意識して、相手の気持ちを考えた言動をとることができる児童が増えたことがうかがえます。また、「学級の中でほめられたりはげまされたりする」が0.1ポイント、「ありがとうと言われる」が0.3ポイント上がっています。互いに認め合ったり感謝したりできるようになっていることがうかがえます。こうして、自分のよさを自覚できるようになったことで、「たよりにされる・クラスの役に立っている」が0.3ポイント上がったのだと考えます。「だれかが悲しむような言動はありませんか」への回答は、まだ2.5ポイントと低いものの、0.4ポイント上がったことから、まだ相手への配慮の足りない言動はありますが、「ちくちくコミュニケーション」を減らそうと意識している児童が増えていると考えます。

以上のことから、学校行事の「遠足」を楽しくするために、児童一人一人が自分の課題を意識して改善に取り組み、振り返る活動を通じて自分の変容を確認したことを通して、児童はよりよい仲間との関係を築こうとする姿が見られるようになったと考えます。

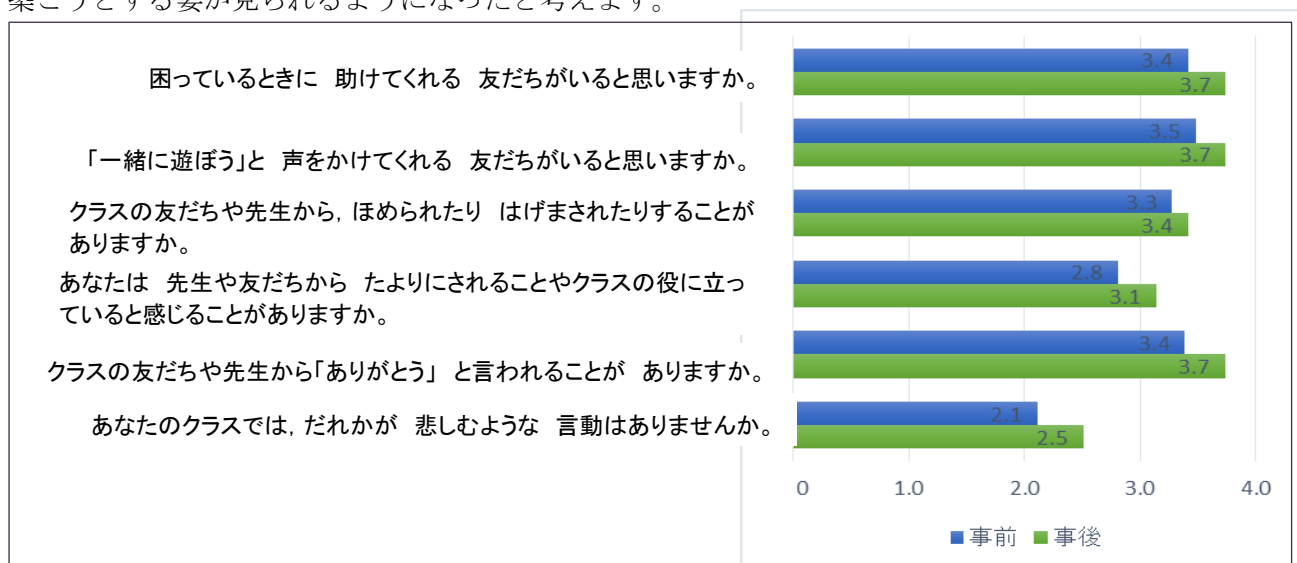


図1 第4学年 実践前と実践後のアンケート結果の比較

イ 児童が、よりよい日常の学校生活を築こうとしているか。

児童がよりよい日常の学校生活を築こうとしているかは、第6学年の実践を基に考察します。「よりよい日常の学校生活を築く」とは、今よりもよい学校生活を具体的にイメージし、自己のよさや可能性を集団の中で生かしながら、仲間と協力してその実現に向かうことだと考えます。

第6学年の児童44人に、授業実践後に「体育大会を振り返って」のアンケートをとったところ、下の図2のようなアンケート結果になりました。「協力できましたか」の項目に全員が「思う」と答えているのはじめ、どの項目も高い割合の児童が「できた」と自己評価していました。体育大会実践活動において、児童が、協力したり責任をもって活動したりできたことが分かります。

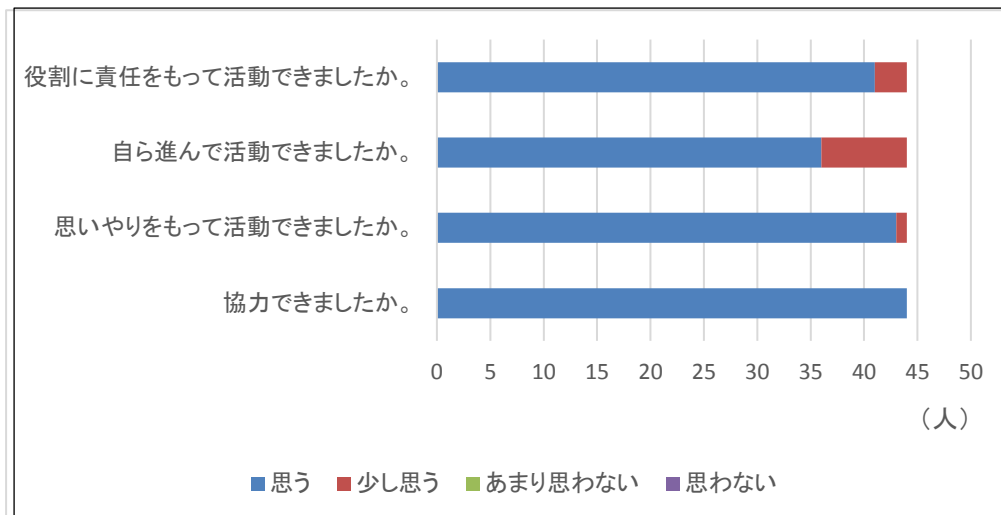


図2 第6学年 「体育大会を振り返って」のアンケート結果

よりよい学校生活にしていくことに自信をもつとともに、その楽しさに気付き、図3の「これからの学校生活について」のアンケートでは、全員が「思う」に回答していました。よって、児童は、学習過程全体を通して、よりよい日常の学校生活を築こうとすることができたと考えます。

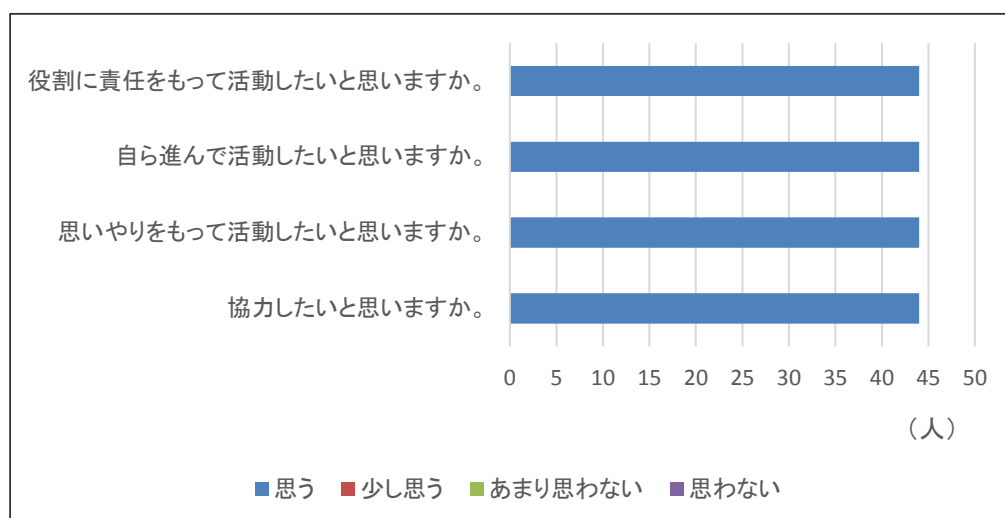


図3 第6学年 「これからの学校生活について」のアンケート結果

ウ 児童は、自他の言動に含まれる道徳的価値を自覚しているか。

第6学年の実践より

第6学年の実践では、「責任感」と「よりよい学校生活、集団生活の充実」を「自覚を図る道徳的価値」として挙げて取り組みました。

まず、前述の「イ 児童がよりよい日常生活を築こうとしているか」で示した図を使って考察します。図1の「体育大会を振り返って」のアンケート結果を見ると、児童が「役割に責任をもつ」「進んで活動する」「思いやりをもつ」「協力する」を意識していたことがうかがえます。この「役割への責任」「進んで活動」「思いやり」「協力」は、児童が「I あい活動」をする際に「I あいめがね」として示した観点です。この観点について、多くの児童が「できたと思う」と答え、図2にあるように、全員がこれからも行いたいと答えています。このことから、「I あいめがね」を観点として示したことは、道徳的価値の自覚を高めるに効果的であったと考えます。

次に、「I メッセージカード」から考察します。以下の表1は、抽出児Fの「I メッセージカード」の記録です。

表1 抽出児Fの「I メッセージ」カードの記述

番号	「Iメッセージカード」の記述
1	私は、◇◇さんが今日の朝に、いつもよりすごく大きな声を出し、5年生の応援リーダーに負けないくらい 本当にがんばっていました 。私も応援で、自分が出せる分 全力を出したい です。
2	私は、◇◇さんが朝の応援練習の時間、 他の誰よりも大きな声を出そうとがんばっていて すごいと思いました。私も◇◇さんのように 堂々と前に立ち、大きな声を出していきたい です。
3	私は、◇◇さんが下級生の道具作りプロジェクトのとき、自分から学校に残れなかったら、 自分にできる仕事を探し、行動に移そうとしていて すごいなと思いました。私ももっと 積極的に自分にできることを見付けたい です。
4	私は、◇◇さんが、スタントのおうぎの技のとき、スタントが初めての5年生をしっかり支えようと がんばっていて すごいと思いました。 自分のことだけ考えない ◇◇さんのように、 私もまわりを思いやりたい です。
5	私は、◇◇さんが朝の時間などに、まだ あまり進んでいない係りの手伝いを積極的にして いてすごいと思いました。私も今日、◇◇さんのように 積極的に行動できていたと思うので、これからもがんばります 。
6	私は、◇◇さんが昼休みに、自分のポンポンを作り終えたら、下級生の分のポンポン作りを手伝ったり、委員会等で教室にいない人の分のポンポンを、 誰からも言われなくて、自分から作ってあげて、すごく思いやりのある行動だ と思いました。私も、 思いやりの心をもって行動したい です。
7	私は、◇◇さんが、ソーランをしているとき、スタントをした後で きつても声をしっかりと出して、疲れを見せずに動いていました 。私も◇◇さんのように つらいとき「こそ」がんばりたい です。
8	私は、今日の昼休み、◇◇さんが、パネル作りの手伝いを 自分のものより、他の人のものを優先させて作っていて 、すごいと思いました。 私も自分のことより、みんなのことを考えたい です。

抽出児が見付けた友達の言動のよさを赤文字、抽出児の気持ちを青文字で示しています。

児童の「全力を出したい」「積極的に自分にできることを見付けたい」「まわりを思いやりたい」「みんなのことを考えたい」などの表記から、「責任感」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」についての道徳的価値の自覚を高めることができたと考えます。

最後に、下記の抽出児Fが書いた「クラスの友達への手紙」の文から考察します。

私は、体育大会の準備やプロジェクトの活動などを通して、自分にできることを見つけるということがとても大切なことだと思いました。

学級会の提案理由として挙がっていた「6－1全員が活躍できるようにする」という思いをもってみんなが活躍できるような役割を決めて、自分ができる係にみんながついたと思いますが、みんなそれぞれ、「得意なこと」と「不得意なこと」があって、「自らが得意でできそうなこと」をそれぞれでやった結果、とてもよい体育大会になりました。このことから、「自分にできること」を見つけ、それを見付けるだけでなく、「行動に移す」ことが大切だと私は思いました。自分にできることをこれからも精一杯頑張っていきます。

上記の手紙から、

学級会の提案理由にある「全員が活躍できる」という言葉を学級全体の願いとして、全員が役割をもったこと

役割を決める際、みんなが、自分のよさや可能性が生かされる役割についたこと

を価値あることと考え、

一人一人が役割を果たした結果、よい体育大会ができたこと

を感じ、

これからも自分にできることを見付け、実行したい

と考えていることが分かります。

「自分にできることを見付け、実行したい」という気持ちに「責任感」、学級会での集団決定や仲間との集団活動を大切にしているところに「よりよい学校生活、集団生活の充実」の道徳的価値の自覚がうかがえます。

第4学年の実践より

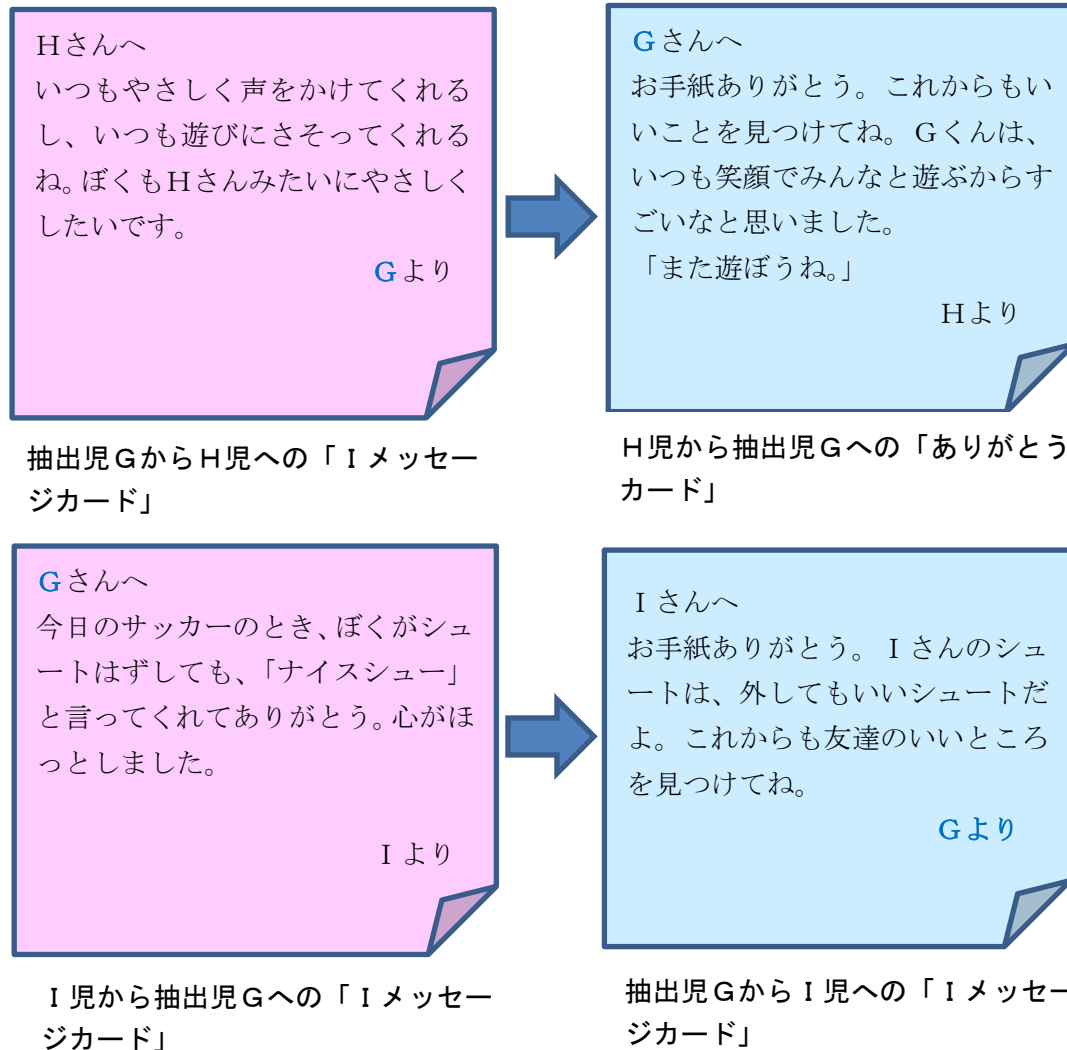
第4学年の実践では、「親切、思いやり」と「よりよい学校生活、集団生活の充実」を「自覚を図る道徳的価値」として挙げて取り組みました。

まず、道徳科の授業でまとめた「ぽかコミュポイント」を用いて考察します。道徳科の授業の中で児童が考えた「ぽかコミュポイント」は以下のとおりです。

- | | | |
|-----------------|-------------|--------------|
| ・ ありがとうの気持ちを伝える | ・ 「ごめんね」と言う | ・ 恩返しをする |
| ・ なぐさめる | ・ 優しく注意する | ・ 注意を受け入れる |
| ・ 応援する | ・ すばやく助ける | ・ けんかしたとき謝る |
| ・ 失敗を励ます | ・ ほめる | ・ 一人の人に声を掛ける |

児童が「ぽかコミュポイント」として上記の項目を考えたことから、「親切、思いやり」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」についての道徳的価値の自覚をしていることがうかがえます。

次に、抽出児Gの「Iメッセージカード」「ありがとうカード」から考察します。



抽出児Gは、H児の「声を掛ける」「遊びに誘う」という言動を、優しいと認め、その返事として、「ありがとう」「また遊ぼうね」と返事をもらっています。また、I児から、シュートを外したときに「ナイスシュート」と声を掛けたことについてありがとうの気持ちを伝える「Iメッセージカード」をもらい、その返事として、「外してもいいシュートだよ」と褒める「ありがとうカード」を贈っています。このようなやり取りを通して、「相手の気持ちを考える思いやり」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」の道徳的価値の自覚を高めることができたと考えます。